

平成24年度 第1回芦屋市立中学校の給食実施検討委員会 会議録

日 時	平成24年7月24日（火） 10:00～12:00
場 所	芦屋市役所北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 増澤 康男 副委員長 山口 謙次 委員 山本 哲也 長谷川 則光 富永 治美 平岡 栄 樽井 千津子 友廣 剛 杉本 じゅん子 松本 朋子 青田 悟朗 事務局 丹下 秀夫 北野 章 根来 泰子 長良 晶子
会議の公表	■ 公開
傍聴者数	13 人

1 会議次第

- (1) 委嘱式
- (2) 教育長挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長・副委員長選出
- (5) 協議事項
 - ①芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会における検討の経緯
 - ②懇話会からの報告書について
 - ③給食の実施方式について
- (6) 連絡依頼事項

今後の調査日程について

2 提出資料

- 資料1 芦屋市立中学校の給食実施検討委員会設置要綱及び委員名簿
- 資料2 芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会に係る資料
- ①活動記録 ②報告書 ③アンケート集計

3 協議

委員長：昨年の懇話会では、丁寧な論議が行われ、皆さんが納得できる協議ができ、よい報告書もできた。この懇話会では中学校でも給食を実施すべきという結論までは出してはいない。望ましい実施方法についても、今のところ白紙であるが、可能な方法は限られる。芦屋市の環境、財政、そして土地の問題等をしっかり考えていく必要がある。また、愛情弁当の意義が完全に失われてしまってもいけない。中学生の学習、生活全てを支える昼食について皆さんで考えていきたい。

事務局から「芦屋市立中学校の昼食の在り方を考える懇話会」に係る資料をもとに、これまでの検討経緯を説明

委員長：昨年の懇話会の委員だった長谷川委員，平岡委員からご意見等がありますか。

長谷川委員：懇話会を通して小学校の給食が良いものであることは再認識した。中学校の給食で思い描くイメージは完全給食で，より良いものにしていく必要がある。初期費用やランニングコストがどういう具合になるのか、具体的な数字が必要である。

平岡委員：中学校給食には，メリット，デメリットがある。その中でより良いものを考えていきたい。

委員長：芦屋市として中学校で給食を実施することは決定されている。そのうえで，委員の皆様現在の考えを聞かせてもらいたい。

松本委員：報告書を読んでよくわからなかったのは、中学校給食の実施を市教委がどのように考えて決断したのかということ。子どもの事情というより，保護者の事情で決まったのか。また，財政面の話も聞かないと，意見も言いにくい。

委員長：市教委の判断の根拠について説明をお願いします。

事務局：懇話会では保護者のニーズではなく、終始，子どもにとってどうなのかという視点で論議をしてきた。そして懇話会からの「全ての子どもがバランスの取れた昼食を取ることができる。このことから中学校においても給食を実施することは，全ての子どもの心身の健やかな成長を図るうえで有効である」という報告を受けたことを根拠に給食へと舵取りをした。

杉本委員：個人的にはお弁当に賛成。子どもたちからは、「小学校と同じレベルの給食がいい」とか，お母さんたちから「給食は手間が省けるから楽」という声を聞くが，そういうものではない。懇話会で話し合われた内容を保護者へアピールしていくことが必要だと思う。

事務局：現在，懇話会からの報告書は，市のホームページにアップしている。それ以上のPRは積極的には行っていない。

友廣委員：難しい話でなく，単純に子どもにとって良い昼食にしたい。財政の問題が入ってくると話がややこしくなる。懇話会のアンケートの中で，給食か弁当かをきいているが，回答者はデリバリーのことを「弁当」と思ったのではないか。

委員長：牛乳だけを出してもミルク給食になる。

給食の問題を考えるときには，財政の話もどこかでは入らないといけない。

樽井委員：自分の中学生の時は給食だったので，給食の実施をうれしく思ったが，色々問題があり，簡単ではないと実感している。

富永委員：小学校で給食を実施しているが中学生は心の問題もあり、残量が増える心配もある。自分が中学時代の時に，丁度，給食が実施されたが、「これが給食？」と思った覚えがある。

山本委員：小学校では、給食は教育活動の一環として取り組んでいる。だが、中学校でも給食を実施するとなると1つ1つ課題を洗い出すことが必要。そうすると小学校と同じような給食は難しいと思う。

青田委員：行政経営という市全体の事業を企画・調整する立場にいる。税金を預かる身としては、お金をどうかけていくのか慎重な判断が求められる。懇話会からの報告書は、食育の観点でよく書かれている。中学校給食を、時間のない中でいかにうまく実施するか。小学校のかたちにこだわらず、中学校ではどんな給食ができるか考えていきたい。アンケート調査については、保護者と生徒のとらえ方の違いが気になった。

委員長：教職員との意見の違いも気になりますね。

山口委員：一部の子どもだが弁当の用意できない子がおり、給食はそういう子に昼食の保障をすることになる。残さずにおいしく食べれる給食を実施しないといけない。先行している三木市は残食率が高い。学校の教育活動に与える影響も十分に考える必要があるし、小学校の給食と同じようなものを中学生に出した時、好み等もあるので、どうなのかなと思う。

委員長：栄養面のことがよく言われるが、おいしさも求められるでしょう。

この会の目的が実施方式の検討ということなので、このことについて事務局から説明をお願いしたい。

事務局から自校方式、親子方式、センター方式、デリバリー方式についての概要を説明。

加えて、事務局で視察を行った名古屋市で実施されているスクーランチ方式についても紹介。

松本委員：名古屋市のスクーランチは、デリバリー方式になるのか。

事務局：デリバリー方式の改良型で、弁当持参も可能で、複数のメニューから選択できるようになっている。

委員長：センター方式を実施するにはこういう注意が必要だとか、親子方式を実施するにあたっての要件など、実際に実施しているところの資料をもう少し集めて欲しい。懇話会で行った三木市や宝塚市の視察資料は参考になる。

青田委員：できれば、それぞれの実施方式について、どんな課題があるのか、また、芦屋で実施するとどうなるのかということと比較表とかで短くまとめてほしい。

委員長：簡潔に、また、具体的に、そして芦屋の3中学の条件なども加えてもらいたい。校舎の建て替えなどは、この会の審議事項ではないが、こうした条件が入ることでも市の予算にも大きく影響してくる。

山口委員 現在、担当課に予算がどの位、必要になるのか、また校舎の建て替えをどうすればスムーズに行えるかということも含めた試算を依頼している。

長谷川委員：良い給食をと思う反面、膨大な予算を使うので、市民の理解を得る必要があ

る。

山口委員：既存の校舎を取り壊して建て替え，調理室を作るとなると，耐震補強工事等の起債の借り入れを一括返還する必要がある。

委員長：お金の話は我々にはイメージできないので難しい。

友廣委員：給食を実施するにはお金がかかる。その費用は教育の予算から使われるのか。

委員長：教育費には限りがあり，教育に携わる人からすればその予算を教材の充実など，もっと他のことに使って欲しいということもあるかもしれない。それぞれの実施方式について，ランニングコスト，人件費，委託費などについても示していただきたい。

平岡委員：実施するからには，最大限，良い状態での給食をと考えてほしい。

松本委員：給食をやると決めたのに予算が確保できなかったでは困る。市長や教育委員会から，給食実施の決意を示してほしい。

青田委員：責任ある行政という立場からも意見を述べたい。芦屋市は，震災の借金が多く，福祉・医療に係る予算も増加してきている。給食を考えるうえでも，長く続くもので，無理のない方式，費用ということで論議しないと，全てを満足させるものは難しいと思う。

友廣委員：市の財政事情は分かるが，子どもにはお金をかけてほしい。

委員長：小学校と給食の実施方法を変える場合は「芦屋の中学に適した」というのが冠につくことになる。業者の選択が難しいと思うが，実際にデリバリーをしているところの資料もほしい。

事務局：中学校給食の視察について，どういう方式の視察希望があるのか，ご意見があればお出しいただきたい。

長谷川委員：昨年，懇話会で参加した視察では，学校や子どもの生の姿が見られて良かった。新たにということであれば，デリバリー方式を見に行きたい。

委員長：この検討委員会の中では，3人しか懇話会の視察に行っていないので，今年も同じところに行くのでも良い。できれば給食でうまくいっているところを見学できればと思う。

長谷川委員：西宮市は全市で同じ献立を自校で調理しているので，それを見るのも良い。

山本委員：西宮市は自校方式といっても，芦屋の方式とはかなり違っている。

委員長：できれば，センター方式のものを1つ入れてもらいたい。

事務局：事務局で検討し，次回の検討委員会で提案したい。

次回は8月29日（水）の10時に開催を予定している。資料については事前配布できるよう進めていきたい。

丹下部長（閉会挨拶）

これまで中学校の昼食は保護者の支援を大きく受けてきた。給食を実施するとなると安易なものは提供できない。方式，予算が大きく関係するが，長続きするものを考え実施したい。